



2017年 カンボジアスタディツアー

2017年3月9日(木)～3月16日(木)8日間

派遣国
派遣地
派遣日程
派遣人数
派遣内容
派遣宿泊
参加費用

カンボジア
シムリアップ県 シムリアップ市 ポー村(BICC)
2017年3月9日(木)～3月16日(木)8日間
6～8名
カンボジアの子供達との文化交流・技術提供
BICC(ボスコ国際文化センター)2F(ボスコハウス)
¥200,000(世界遺産アンコールワット遺跡見学を含む)
(旅費・宿泊費・食費(外食は個人持ち)、研修費、現地ガイド費、観光費等)
ボランティア意識、語学力(中学生英語程度)、協調性、健康
ボランティア活動準備研修会参加(11月・12月・1月・2月・3月5回開催)
第一回研修会日程:2016年11月13日(日)14:00 VIDESセンター

活動日程予定計画
3月 9日(木) 成田空港出発
10日(金)～11日(土)ポー村小学校ボランティア
12日(日) BBS(ボスコ日曜学校ボランティア)
13日(月)～14日(火)ポー村小学校ボランティア
15日(水) アンコールワット・トム観光 タ方空港へ
16日(木) 成田空港到着

参加ご希望の方は2016年11月12日(土)までに、Email:videsjp@gmail.com
またはTEL.FAX.03-3906-0070(VIDES事務局)にご連絡ください。



2016 VIDES年間予定表(前期)						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
料理教室	9(土)	28(土)	215(土)	9(土)		
ハンド オブ エンジェル(HA会)	4(月)・5(火)・11(月)・12(火)18(月) 19(火)20(水)・25(月)・26(火)・27(水)	9(月)・16(月)・23(月) 30(月)・31(火)	1(金)・6(月)・13(月)15(水) 20(月)・22(水)・27(月)29(水)			5(月)・6(火)7(水)12(月) 14(木)21(水)29(月)・28(水)
リストランテ VIDES	13(水)	11(水)	8(水)			
祈りの会		10(火)	14(火)			13(火)
VIDES SHOP	8(金)・14(木)・15(金) 21(木)・22(金)・2・7(金)	6(金)・12(木)・ 13(水)・26(木)・27(金)	2(木)・3(金)・9(木)・16(木) 17(金)・23(木)・30(木)			2(金)・8(木)・15(木) 16(金)・23(金)
ランチショップ	21(木)・28(木)	19(木)・26(木)	16(木)・21(木)・ 23(木)・30(木)	7(木)		1(木)・15(木)・29(木)
オブザーバー会	2(土)・24(日)	29(日)	26(日)			18(日)
フレンドシップ			11(日)	10(日)		11(日)
慈しみの家		10(火)・17(火)・19(木) 26(木)・31(火)	2(木)・7(火)・9(木)・14(火)・16(木) 21(火)・23(木)・28(火)・30(木)	15(火)・16(水)		1(木)・6(水)・8(木)・13(火) 15(木)・20(火)・27(火)
	10(日)定例会	29(日) 赤羽協会バザー		VIDES世界大会		目黒サレジオ幼稚園バザー

発行: VIDES日本管区 代表: FMA日本管区本部 Sr.福川孝子 Email : sr.inagawa@gmail.com
編集: VIDES事務局 (Mac Love) 〒115-8524 東京都北区赤羽台4-2-14 TEL/FAX.03-3906-0070 Email: videsjp@gmail.com / VIDESホームページ:http://www.videsjp.org

VIDES

NEWS

VIDES NEWS 第36号 2016年4月発行 VIDESH本管区 事務局 vol.36

BICC

Bosco International Culture Center

落成式 2016.3.13



あいさつ

就任あいさつ

管区長
Sr.森下 ワカヨ



VIDES会員の皆様、こんにちは!昨年5月末に、シスター井上澄子に代わり管区長に就任にいたしましたシスター森下です。よろしくお願いいたします。

これまで、私は静岡や世田谷で教職に就いていましたが、その間、とくに高校生たちの海外ボランティアでVIDES会員の方々に大変お世話になりました。私自身、若者と共にボランティアを経験し、そこで若者たちが得るものの大きさを体験してきました。無償で、自主的に自己を皆のために提供する、ボランティアの奉仕の心は、その人自身を大きく成長させ、人生を豊かにするのだということを、VIDESの活動をととして教えられました。今後も、VIDESと共に歩んで生きたいと思えます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、毎年、サレジオ会総長より年間目標(ストレンナ)が示されますが、今年のストレンナは「聖霊にゆだねて冒険してみよう!イエスと一緒に、みんなで共に!」となっています。今、神様(聖霊)が私たちに求められていること、「冒険」とは何でしょうか。「みんなで共に」歩んでいくよう望まれている冒険の1つは、人々の「居場所作り」をすることではないかと私は思っています。

いつくしみや温かい関わりを求めている人にことばをかけ、微笑むこと、イエス様やドン・ボスコのように、友を求めている人の友となること、「居場所」を作ること、これらはまさにVIDESの方向性と合致しています。その意味で今年のストレンナはVIDESの活動を後押ししてくれるものとなることでしょう。

それでは、Let's adventure together!!!

就任あいさつ

VIDES JAPAN 事務局長
染谷 博史



このたび中川さんの後を引き継ぎ事務局長を務める染谷です。Sr.稲川をフォローし、これからは若者を中心とした活動を進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

新しい出発の年...

VIDES JAPANデレガーター
Sr.稲川 孝子



VIDES JAPAN設立20周年記念行事も終了し、新たな歩みを始めた2016年度は、日本の若者たちが、希望と期待に胸を膨らませるような、ドンボスコの喜びの精神でボランティア活動をするために、自分自身の「生きる意味を見出し」、「隣人との連帯の中で」、「自分の使命を悟り」、世界平和の実現に向かって前進できることを応援し、支援していきたいものです。

カンボジアプロジェクトは「BICC」ボスコ国際文化センターとして。カンボジア人スタッフが中心となり、新たな活動が始まります。

また、日本では「Casa di Misericordia」=「慈しみの家」を設立し、「貧困で助けを必要としている日本の若者と子供達」の為に新たな活動が開始されます。

カンボジアと日本の若者たちが、ボランティア活動を通して、地球上のすべての人々との温かい交流を積み重ね、現代世界の苦しみの現状を、打開する一粒の麦になることが出来るよう、皆様の祈りと応援・支援をお願い申し上げます。

退任あいさつ

VIDES JAPAN 事務局長
中川 摩夜



薫風の候、VIDESメンバーの皆様には各活動を通し、たくさんの『思いやりの行い』を喜びのうちに現実的に証している事、心より感謝申し上げます。

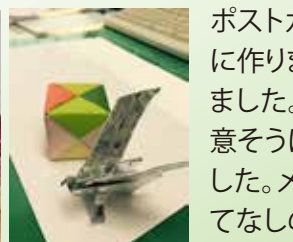
私も立ち上げ期からvides japanと共に歩み、多くのことを学び、皆様に助けられながら貴重な体験をさせていただき、一つの時代が終わりました。おかげさまでこの度、事務局長並びに事務局を退任する運びとなり、ここに至るまでの沢山の方々のご助力と箴言にも、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

これからも多くの活動を通し、世界の青少年の未来のためにVIDES JAPANが現実的に貢献出来ますよう祈念しております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。心より感謝。心より御礼。

VIDES 静岡だより



平成27年6月に静岡サレジオ学園にてサレジオ祭のバザー開催。



ポストカード作り・折り紙・塗り絵・かざり作りなどを子ども達と一緒に作りました。大学生も参加し、子ども達に、寄り添って製作をしました。製作した子ども達は「ぼくがつくったんだよー!」と、得意そうに、お迎えにみえた親御さんに、話していたのが印象的でした。メンバーは、ピンクのユニフォームを着用し、温かい「おもてなしの心」で、対応しました。



♥東京VIDESの方も見えくたしました。ありがとうございました♥

静岡 VIDES ジュニアの活動



4月
フィリピン支援物資回収

6月 サレジオ祭で活動報告と募金
10月 チャリティーイベント
VIDES アカデミックアクト

5月
支援物資輸送・
ミッションキャンプ準備



11月 カトリック清水教会バザー

12月 クリスマス募金VIDES通信の発行

フィリピンでの活動報告 — 就学支援金を届けました。

保護者の皆様からネグロスの子供達へ、VIDES静岡・ジュニアからマニラの子供達へ支援金を送りました。多くの皆様の善意は、夏に行われる高校主催の「フィリピンボランティア研修」に合わせて現地の子どもたちへ届けられ、参加生徒が見守る中、奨学金が授与されました。奨学生に選ばれた子どもが封筒を受け取る瞬間の眩しい笑顔に拍手を送りながら彼らの「学べること」への純粋な喜びと強い熱意に感化される生徒も少なくありません。「学校に

行けるのって、当たり前のことじゃないんだ」それは、豊かな日本にいたら、気付けなかったこと——「就学支援金」の授与はサレジオ生達にも自身の「今」と向き合う貴重な機会になりました。



VIDES
スマイルフェスタ
10/17(土) ▶ivio七福神広場
**ドンボスコ生誕
200周年記念閉幕式**
11/23(日)カトリック東京カテドラル関口教会



綿あめ、ポップコーン、焼きそば、手作りアクセサリーなどの販売もフェスティバルの雰囲気盛り上げてくれた。中学生・高校生の若者たち手伝いに駆けつけてくれた。



実行委員の開会宣言でスマイルフェスタが始まった

2015年から、高校生、大学生を中心として青年たちの活動を活発化させています。その中で、赤羽駅北口の大型商業施設のBIVIOさんの協力のもと、VIDES主催のフェスタを行いました。

今回の主な目的は、教会の外に積極的に出ていき、若者たちが自らの力を、自信を持って発揮していくことで、教会

ストリートダンスに興味する子供たち



の新たな活力を芽生えさせていくと同時に、地域の活性化にも貢献していくことでした。その中には、バイオリンの演奏、ストリートダンス、星美ホーム



の子どもたちによるダンスなどがありました。多くの分野のパフォーマンスによって、お互いが自らのできることを出し合い、一つものを完成させることで、個性を出していく。一人ひとりの輝き、そしてひとつになったときの働きの素晴らしさを感じました。

その中で特に印象的だったのは、ドンボスコの生涯を現代版にアレンジし、その教育者としての側面を強調した劇でした。この劇の中では、幅広い年齢層の方々の協力を得て、ドンボスコが今の時代



星美ホームの子供たちのダンス

代に來たらどうなるであろうかということを考えながら、ユーモアのある演技が魅力的でした。多くの一般の観客の方も

集まり、一人の魅力ある若者の教育者としてドンボスコの姿を、多くの人に知ってもらえたと思います。

ドンボスコが「タイムスリップ」して現代にやってきたという設定でしたが、やってみて感じたのは、現代世界にもドンボスコのように、若者の一人ひとりの人格を重要視し、その心を開いていく教育法は、大きく影響しているということでした。こうしたドンボスコの姿が、「タイムスリップ」で終わらず、現代に合わせて応用していけるかどうかは、私たち若者がそれを受け継いでいけるかにかかっていると思います。教会の外に出て、そのことを考えることで、一人ひとりが成長するきっかけになったと感じています。

ドンボスコ生誕200周年閉幕式

「スマイルフェスタ」を経て、私たちはドンボスコ劇に関して、とても好評を頂き、11月23日に行われたドンボスコの生誕200周年閉幕式においても、再演することになりました。そこで、私たちは、「ボスコ劇団」を結成し、今でも活動を続けています。閉幕



式においても、サレジオ会の多くの関係者様の前で、現代だからこそ伝えたいドンボスコ像を再現することができました。また、VIDESの活動の報告をする機会も頂き、特に国際ボランティアにおいて得た経験を通して、これからの若者が立ち向かわなくてはならない課題や、VIDESの若者が持っている可能性について、発表することができたと思います。

VIDESの活動は、私たち若者が、多くの世界、人々に触れ、成長できる場だと思っています。国際的な



場はもちろん、以上のような教会の枠を越えた場所での活動においても、多くの刺激があります。こうした活動

を支えてくださっている方々に対しての感謝の気持ちを忘れず、その頂いた機会を無駄にすることなく、一人ひとりがそれらを自分のものにし、将来に貢献できる人間になればと考えています。

「ボスコ劇団」発足!

～VIDESアカデミーの一部門～

この記念すべき年の暮れに、盛り上がったメンバーたちはとうとう劇団を結成! その名も「ボスコ劇団」!! (団長: 山田 裕子さん) そのメンバーたるや一人ひとりが個性豊かでものすごい! 練習日は1ヶ月に1回のスタンス。毎回、新しい笑いが噴き出す。まずは良い腹筋運動かな? 実は、毎回の公演はメンバーが少し入れ替わっている。各自の予定を見ながら無理のないところで役を決めていく。初めはオブザーバー会のメンバーとのつながりの中でどんどん仲間の輪が広がり、現在は小学校4年生から大人は? 歳まで、高校生、大学生、教師、フリーター、サラリーマンなどと、バラエティーに富んでいる。このように「老若男女」様々な人が家族のように集まって共に活動する、これが我がVIDESの魅力ではないだろうか!



舞台風景



いつも笑顔の偉大なドン・ボスコ



BICC (ボスコ国際文化センター) 設立の歩み!!!

BICC (ボスコ国際文化センター) の前身であるBSS (ボスコ日曜学校) は、カンボジアの一人の青年から「自国の子供達に、私たちがボランティア活動を実施したい」との申し入れからはじまりました。2009年5月開校し、当時3歳～10歳のポー村の一番貧しい子供たち32人を、毎日曜日、カンボジア人スタッフが識字教育を実施しました。

カンボジアの若者が自国の子供達に「ボランティア精神」で「最も貧しい子供達に」「自発的に」「無報酬で」活動を開始したのです。それから、BSSの子供達は成長し、小学校に通うことが出来、現在では小学校高学年や中学生になっています。

そのような状況から、低学年教室と高学年教室の2教室が必要になってきました。そこで、2015年5月BICC建設が始

まり、2016年3月13日 (日) BICC落成式が執り行われました。

落成式はカンボジア国の世界遺産「アンコールワット」があるシエムリアップカトリック教会の主任司祭Tote神父様 (イエズス会士) による荘厳なミサと家の祝福が行われ、祝賀パーティーにはBSSの子供達有志 (Su-Su Girls=スースーガールズ=頑張る女の子たち) がプロダンサー大浦 友氏指導の下、2ヶ月間特訓を受け、素晴らしいダンスを披露してくれました。また、可愛い子供たちは、毎日曜日、漆原恭子先生から音楽授業を受け、晴れてお披露目を致しました。

将来のBICCは、カンボジアの子供達の希望の星になり、多くの子供達、青年たちが自分を磨き、カンボジアの貴重な人材養成の場となることでしょう!!!これからもBICCの為に祈りと応援・支援をよろしくお願い申し上げます。



カンボジア子ども基金"希望"『KFCC』の創設にむけて

About Kibou Foundation for Cambodian Children『KFCC』

Historically, Angkor period is so-called the golden age period, which had started from the early ninth century to fifteenth century.

In that period, many temple was constructed for religion and some are still remained until now.

For example, Angkor Wat temple is the one of the famous temples in the world cultural heritage list.

According to an archaeological research, one million people had just lived in Angkor Thom city (three kilometers square).

Cambodia, after Angkor period, faced to many battles from foreigner and also the civil wars inside the country.

Notably, in Pol Pot regime, people was killed about 1.7 million persons, which most of them are the high educated people.

In the economic front, we have experienced rapid reconstruction development, while in sustainable development, long-term, such as securing a stable supply of problem challenges of energy environmentally friendly surface is abound.

And, above all children of Cambodia is proud to Khmer culture, while inheriting the traditional arts, in order to grow with an international perspective, it is considered that there is a large role to play in education from a long-term outlook.

From these points of view, to support to Cambodian culture and full of forgiving and peaceful, we are establishing the initiator of the "Children's Cultural Foundation of the Khmer" to nurture the young people responsible for the future of Cambodia.

PHIN Phakdey

PhD candidate in Area Studies, Graduate School of Global Studies, Sophia University

カンボジアの歴史をふりかえりますと、いわゆる『アンコール時代』は9世紀初頭に始まり、その隆盛を極めた黄金期は15世紀まで続きました。その頃、信仰のために多くの寺院が建立され、現存するものが多々あります。中でも『アンコールワット』は、世界文化遺産リストに登録された有名な寺院の一つです。考古学的研究によれば、当時、『アンコールトム』は3km四方にもおよび、市街には100万人もの人々が暮らしておりました。

しかしながら『アンコール時代』の後、カンボジアは多くの戦いに直面しました。外国からの侵攻に加え、内戦も勃発しました。とりわけ、ポルポト政権時には、約170万人もの高い教育を受けた教養人の殆どが殺されてしまいました。

現在、カンボジアは経済面において、急速な復興開発を経験していますが、長期的な展望に立てば、まだまだ多くの問題が山積しています。つまり、エネルギー環境面に配慮した、持続可能な開発を進めていく必要があるのです。さらに、伝統芸能を継承しながら、カンボジアのすべての子どもたちがクメール文化に誇りに思い、国際的な視野をもって成長するためには、長期的な見通しから、教育において果たすべき大きな役割があると考えます。

よって、私たちは、寛大で平和に満ちたクメール文化をサポートし、カンボジアの未来を担う若者を育成するための『カンボジア子ども基金"Kibou"』を創設致します。

ピン・パクディ

上智大学大学院

グローバルスタディーズ研究科地域研究専攻 博士後期課程

カンボジア子ども基金"Kibou" (KFCC) とは…

「クメール文化に誇りをもち、自立する」ための子どもの活動を応援し、若者が「地球規模で活躍する」ための手助けをする基金です。



Cambodia Volunteer

カンボジアボランティア

2015年12月26日～2016年1月2日、「カンボジアボランティア」に4名が参加し、実施されました。冬休みの毎年年年末年始を利用して、教職員対象のボランティア体験。BSSと公立のポー村小学校で、主に情操教育（音楽・体育・図画工作など）に関する授業を担当します。カンボジアの子ども達のみならず、学校の先生方も一生懸命学んでおられます。



笑顔!笑顔!! 笑顔!!!

高木 信明

様々なボランティアを通じ、自分の心に響く感覚の広がりを実感していたので、今回参加できて幸運でした。

ポー村小学校では毎回違う50人位のクラスでの授業、BSSでは継続して参加できる低学年から高校生まで幅広い層への授業を担当。ポー村小では図工でパラシュート作りを、BSSではリコーダーを教えることにしました。ほぼ日本語のみでの授業になったにも関わらず、みんなで楽しみながら創作と遊びができました。またBSSではリコーダーに初めて触れた女の子達が真剣に練習し、3日後の大晦日のパーティでエーデルワイスを演奏。



これには本当に驚かされ、震えるほど嬉しかったです。ボランティア活動は、国や地域や文化を越えて助け合い、互いを高め合う活動であるということが、沢山の笑顔から再認識できました。

オラトリオの原点を感じて 安藤 美帆子

カンボジアでは本当に多くのことを学ばせて頂きました。BSSはとても印象的だった。BBSの裏にあるガレージのような小さな教室です。そこは、「ドン・ボスコが作ったオラトリオの始まりはこのような場所だったのかもしれない。」と思わせる温かい家族的な雰囲気がありました。①BSSに行けば自然と笑顔になれる仲間がいる。②ドン・ボスコのように勉強を教え、一緒に遊ぶ先生がいる。③マンマ・マルゲリータのように、微笑みを浮かべながら子どもたちを見守り、パンを差し入れてくれるみんなのお母さん（オーナーのお母様）がいる。④BSSの大人たちは自分のことを大切にしてくれている。という、環境への安心感によるものだと思います。

BSSに携わる大人たちの中には、ドン・ボスコの想い・願いと同じものが確かに根付いていると思いました。そして、



BSSに通う子どもたちの心には「私は大切にされている。私は大切な存在なんだ。」という自己肯定感や自信、「自分も善い人になりたい。」という憧れが育っていました。

ドン・ボスコのオラトリオは、時代・国を越えて必要とされる場であることを改めて認識しました。

カンボジアボランティアを通して 中村 美幸

教育実習や日本の学校でのボランティア活動でしか授業をした経験がなく、指導経験も浅いのに言葉が通じないカ

ンボジアで授業ができるのかという心配でした。

カンボジアに行くと、学校の制度や環境が全く違います。スポーツのルール、授業で整列すること、チーム分けをすること、準備体操をすることなどが基本としてないことに驚きました。少しずつ少しずつ教えていくという積み重ねた指導を教員がしていかなければと実感しました。

最近では、子どもたちが公園で遊ぶ施設が減り、制限されている中、カンボジアでは家に帰っても、友達と町中で遊んだりスポーツをする環境があります。自然と隣り合わせて身体を動かす機会があるカンボジアは、とてもいい環境にあるなと思いました。言葉が通じなくても動きの工夫や指示の方法を工夫するだけで、授業をしてみんなで新しいことを学ぶことができるのだと実感しました。

将来、私が教師になった時、このカンボジアでの経験を活かし、子どもたちと共に、勉強だけでなく夢を持てる学校生活を作りたいと思いました。



カンボジアでの体験

清久 真衣

もともと海外のボランティアに興味があり、期待を膨らませて参加することを決定した。

校庭には走り回る子どもたちの姿がいっぱいで、小さい子どもを追いかけてまわしたりして遊びながら授業の時間まで過ごしていた。補助として他の先生方の授業に参加し、私自身も楽しみながら取り組む事が出来た。午後にはBSSで私のリトミック。体ひとつあれば楽しむことが出来る音楽を、みんなで一緒にやる事が出来て私自身とても良い経験をする事が出来た。言葉が通じなくても、音楽を通して触れ合う事でコミュニケーションを取ることが出来たと改めて感じた。それから毎日、小学校とBSSでも授業を繰り返し、子どもたちと楽しみながら触れ合う事が出来た。

この体験で感じたことは、子どもというのは日本もカンボジアの子どもも、おそらく世界中の子どもたちも変わることはなく、無邪気でどんなことにも興味をもって楽しんでもくれる存在なのだということ。今回のこの経験を生かして、今後の私の糧としていきたい。また来年も参加したいと思える、素晴らしい経験をすることが出来、本当に嬉しく思う。



Cambodia Study Tour

カンボジアスタディツアー

2016年3月10日～3月17日、「カンボジアスタディツアー」にSr.稲川の引率のもと、臼木恵二先生、岩瀬咲子さん（大学2年）、玉川和奏さん（大学2年）、門嶋真悠乃（高校3年）の4名が参加し、実施されました。BICCの落成式参加と、ポー村小学校でのボランティア活動です。



カンボジアスタディツアーに参加して

岩瀬 咲子

私はこのツアーに2回目の参加になるが、昨年よりもBSSに来る子と話すことができたと思う。子どもとは言葉が通じなくても、一緒に遊ぶことができるし、身振り手振りでコミュニケーションをとることは十分に可能だと思う。ダンスの練習の合間に英語のテストの勉強をしていたアリタは、学年で1番をとったらイギリスに留学できるから絶対に1番を取りたいと言っていた。

私たちの滞在中毎日、BICCの掃除や洗い物などお手伝い



をしていていたスレイナイとカンニャとは学校での成績や将来の話をしたり、日本の文とカンボジアの文化を互いに教えあったりした。カンボジアの子

どもたちの夢を聞いたり、一生懸命に物事に取り組む姿を見て、またBICCのゲストハウスに流れるゆったりとした時間の中で自分自身を見つめ直すことができた。

玉川和奏

高校在学中から興味を持っていたカンボジアスタディツアーに今回初めて参加させていただきました。

カンボジアに対するはじめのイメージは“貧困”でしたが、到着し街中を見ると日本の高級車が走っており貧しい中でも少しずつ発展していることが感じられました。

ポー村小学校でのボランティアでは、1年生に新聞紙を使った手裏剣の折り方を教えました。しかし、一年生には手裏剣の組み立てなどが難しく反省の残る授業でした。また、3年生には国旗を使った世界地図の授業を行い、子供たちが楽しそうに国旗に色を塗る姿やその国旗の国の場所が分かった時のうれしそうな顔を見て、子供たちのためになっていると感じることができました。今後大学でカンボジアについての勉強を続けていきたいです。



門嶋真悠乃

私は教師を目指しているわけでも、子供が特別好きなわけでもなかったのですが、この活動に参加することへの明白な理由はなく、ただ誰かの役に立ちたいという思いだけでした。

授業前日、自分の考えた授業内容で上手くいくのか、子供達は喜んでくれるのかと何度も不安に駆られました。いざ授業をしてみると、子供達は少ない指示の中できちんと理解し、素晴らしい結果を残してくれました。授業中の子供達の笑顔と真剣な眼差しが今でも目に焼き付いています。

人に何かを教えるやりがいと子供達がそれに応えてくれるという今回学んだ喜びは、私にとって一生の宝になりました。私はカンボジアの子供達が大好きです。



臼木恵二

2016年3月10日から2週間カンボジアスタディツアーに参加しました。私に課せられた課題は合唱指導です。私の担当するクラスは午前が8:30より低学年、午後4時より高学年それぞれ45分です。

低学年の子供達には3音（ドレミ）の日本のわらべ歌「くまさん くまさん」の歌と遊びを教えました。ドレミを基本に十のテトラコード（4音）まで進むことが出来ました。

午後は学校を終わった高学年の子供達男1、女6の7人グループです。この子供達には先ず私の出す音と同じ音が出せるかという事で高低いろいろな音を出させてみました。時間をかけていくうちに結構同音表現出来るようになって来ました。何度か練習しているうちにカノンらしくなった事は嬉しい事でした。最後の授業時間中に日本の大学生男女およそ20名が施設訪問に見えたのです。丁度カノンの練習をしていた時で、一緒に授業に参加してくれ4部のカノンを皆で歌う事が出来、それは素晴らしいハーモニーとなりました。子供達は初めて聴く声によるハーモニーの美しさを体験したのです。「あれもやりたい、これもやりたい」いろいろ準備をしていきましたがここまでが精一杯でした。近い将来この続きをやりたい気持で一杯です。



Cambodia Study Tour

カンボジアスタディツアー 2015.3.9~16



カンボジアスタディツアーに参加して

藤村 弥生 学習院大学1年

ポー村小学校に到着すると子供たち数人がにこにこしながら近寄ってきて、手を振ると振り返ってくれました。授業が始まると、子供たちは真剣なまなざしで私たちを見つめ、全身で教わっている内容の一つ残らず吸収しようとしているようでした。

私は新聞紙を使い折り紙を教えましたが、かどを合わせたり線に沿って折ったりということは多くの子供が苦手なようで苦戦していました。しかし、言われたとおりにやってみようという子供たちのやる気が感じられ、教える側も本気になりました。一方BSSの子供たちは手先が器用で折り紙が簡単に出来ていたことには驚きました。

子供たちと接して一番感じられたのは素直で、純粋で、子供らしいということです。楽しいときにはキャッキッと笑い、興味のあることには目をキラキラさせて向かっていく姿を見て感動しました。

これからカンボジアはどんどん経済発展していきますが、今のような人々の優しさが消えてしまわなくてほしいと強く思います。発展していくには教育が重要です。すべての子供が学校で過ごすことができるようになるにはまだまだ時間が必要です。どうすればより多くの子供が学校に通えるようになるかを考えるきっかけとなりました。

細井 梨世 上智大学1年



私はカンボジアに行って子供たちから、「学ぶことは喜びである」ということを学んだ。教室で子供たちの前に立って気が付いたことがある。それは子供たちが日本という知らない国

から来た私の行動や言葉のすべてを見て、何かを学ぼうとしようとする姿勢だ。カンボジアに行って、学ぶことに喜びをもっている子供たちを見ることができた。そして、喜びにあふれた目で自分の夢を語っている姿も印象的だった。自分の未来に希望を持ち、今を精一杯生きている姿にとっても感動した。私も今自分が置かれている場所や関わっているすべての人への感謝の気持ちを忘れないようにしようと思った。



梅川 春奈 成蹊大学3年

カンボジアに行って特に感じたことは2つあり、それは子どもの純粋さと教育の重みでした。小学校では毎日授業とおにぎりをしました。こちらの対応1つで、表情をクルクル変える彼らの純粋さに

圧倒され、言葉は通じないけれど体当たりで飛び込んでくる彼らは、私に大切なことを教えてくれたように思います。

その純粋さの反面、教育のもたらす影響力には愕然としました。義務教育がないこの国の子どもたちは、さらに厳しい環境に立たされていると思います。実際に、BSSに通っている子どもたちは週末になると肉体労働をしていたし、散歩中に会った20代の男性は、学校に通っていないと話してくれました。学ぶことに対して意欲的な2人でしたが、制度が整っていないという理由で、教育を受けられずにいるのです。

今回の目標は「今の私にできることを全力で」でした。今の私にできることは「勉強ができることはありがたいことなんだよ」と周りに伝えていくことです。1人の力は本当にちっぽけで悲しくなることもあります。これからも私は「今の私



にできること」を探し続け、また「いつかできるかもしれないこと」を膨らませながら、今後の人生を歩んでいきたいと思っています。

岩瀬 咲子 上智大学1年

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな時でも感謝しなさい。(テサロニケの信徒への手紙5章16-18節)」この言葉はいつも私の頭にある。スタディーツアーに参加して、日本での便利 な生活の中では感じることはなかったであろう感謝の気持ちをたくさん感じた。カンボジアの雰囲気や人と人の近さは、私にとってなぜか懐かしく、温かく感じた。

今回、先生として小学生を相手に授業をするという初めての体験をした。

私は、人前で話すことが今まであまり多くなかったため、「教える」ことは、想像していた以上に難しかった。

。だけれど、生徒たちは一生懸命に授業を受けてくれた。それは、先生方の努力やボランティアの方々の活動のおかげで、教育を受ける姿勢が身につけているのだと感じた。ポー村小学校、BSSの子供たちは人懐っこく、初対面の外国人である私たちにも隔てなく接してくれ、嬉しかった。ぜひまた、あのキラキラした笑顔に出会いたい。



関 翔矢 亜細亜大学3年

授業は、体育を教えたのですがスムーズに進行することが出来なかったときは他のメンバーが助けてくれて何とか授業を進めることが出来ました。子供たちの目はいつも綺麗に輝いていました。その子たちと遊んでいると僕も自然と笑顔になり、元気をもらいました。

今回カンボジアに行き、今まで知らなかった世界をたくさんを知り、それにより、多くのことを考えさせられました。滞在中よく散歩をしていたので、現地の大人の方とも交流しました。みんなやさしい人たちで気さくに話しかけてくれました。その散歩中に家の事情で学校に行くことが出来な

かった人に出会いました。その人は独学で日本語や英語を学んで普通に日常会話が出来ていたので会話をすることができ、その人は非常に明るくて、やさしい人でした。別れたあと、「なんでこんなにいい人が満足に学校に行くことが出来ないのだろう。僕に何かできることはないのかな?」と思いました。これは、現地に行ってお話ししたからこそ感じたものだと思います。

日本に戻ってきてから、僕には、あの国の人たちのために一体何が出来るのだろうか、ということを考えるようになりました。今後も僕に何かできることがあれば積極的に行動していきたいです。

鈴木 真理 國學院大学1年

授業の準備やクメール語の練習など準備を進め、そしていざカンボジアに行ってみると、車が壊れるのではないかなと思うくらい凹凸の激しい道や、車が来ても平気で寝ている沢山の犬、今にも落ちそうな5人乗りバイク、何日も続く結婚式の音楽など日本にはないカンボジア特有の文化にただただ圧倒されるばかりでした。

ボランティアの目的である子ども達との触れ合い、そして授業。私は魚釣りゲームと手作りヨーヨー、そして輪投げという授業内容で、ポー村小学校で2回、BSSで2回の計4回授業を行いました。どの子も目をキラキラさせながら一生懸命授業に取り組んでくれました。自然と緊張や不安もなくなり、大きな声で自信を持って授業が出来るようになり、授業以外でも休み時間の間に鬼ごっこをしたりボール投げをしたりと、触れ合うことが出来ました。

今回このボランティアに参加して、子ども達やカンボジアの人々からとても多くのものを頂けた気がします。何事も素直に受け止め一生懸命取り組む姿勢や、他人でも困っている時助けてくれる優しさ、そして常に笑顔で手を振ってくれる町の人や子供たちの温かさ…。現地の人の温かさに触れとても心が豊かになったような気がしています。



VIDESセンター移転お知らせ!!!

＊ライオンズタワー赤羽から赤羽グリーンハイツに移転しました。

＊新住所:〒115-0044 東京都北区赤羽南1-11-5

赤羽グリーンハイツ207号

TEL:03-5939-7497 FAX:03-5939-7498



2016年度VIDESマインの新しい活動のお知らせ!!!

現代日本の貧しい子供達や若者たちを支え・応援するために、「Casa di Misericordia」=「慈しみの家」設立をする。

＊活動目的:青少年と若者が安心して、利用できる場所を提供する

＝青少年と若者たちが心身ともに安心して、ゆつくり自由に過ごすことが出来る場所

＊活動場所:VIDESセンター TEL=03-5939-7497

＊活動日:毎週 火曜日・木曜日 PM5:00~PM8:00

＊活動内容:話を聞く・受け止める・遊び・語り合い・食事作り・食事を一緒にする

＊活動開始:2016年5月より